

碧峯奨学生インタビュー | 金璫さん<南カリフォルニア大学 MBA>

36歳で挑んだMBA。ITセールスからグローバル新規事業の牽引者へ

在日同胞の寄付と韓国政府の支援により1963年に設立された韓国教育財団は、在日同胞学生の学びを支えるため、長年にわたり奨学金事業を行ってきた。2003年には、グローバルな舞台で活躍を志す若者を支援するため、「碧峯奨学基金」を創設。今回は、その支援を受けて米国でMBAを取得し、現在は韓国法人の新規事業に携わる金璫さんに話を聞いた。

Q： 現在のお仕事について教えてください。

A：外資系IT企業の日本法人での勤務を経て、現在は韓国法人の新規事業の立ち上げに携わっています。MBAで身に付けた英語力とマルチカルチャーでの経験、数字に裏付けられた分析能力を強みに、セールスマーケティングの分野でキャリアを築いてきました。これからは、韓国で生まれ日本で育った人材として、多様な文化を受け入れながら、グローバルな仕事をマネジメントしていきたいと考えています。

Q： MBA留学を目指したきっかけは何でしたか。

A：小学6年生の時に、父の仕事の都合で来日しました。大学卒業後はITシステムセールスの仕事に就きましたが、働く中で、次第に国際的な環境で自分の力を試したいという思いが強まり、米国でのMBA取得を志すようになりました。

Q： 留学に向けてどのような準備をされましたか。

A：当時は英語に自信がなく、資金面の課題もありました。そのため、ベトナム・ホーチミン市にある日系デジタルマーケティング会社へ転職し、日中は英語を使って働きながら、業務後は留学に向けた勉強に励みました。仕事と勉強の両立は容易ではありませんでしたが、努力が実を結び、2020年2月に南カリフォルニア大学MBA課程に合格。同年8月に渡米しました。

Q： 留学生活で大変だったことは何ですか。

A：一番大変だったのは、やはり資金面です。留学費用は、授業料に生活費を含め、2年間で約2500万円に上りました。それまで懸命に働いて貯めた預金と借金で資金をまかないましたが、ロサンゼルスは日本に比べ物価も高く、生活は決して楽ではありませんでした。妻とともにアパートで暮らしていましたが、年利7%というローンの金利も重くのしかかり、外食を控えるなど生活費を切り詰めながら、日々学業に励みました。そのような状況の中で届いたのが、1学年上の在日韓国人の先輩から教えてもらい、応募していた碧峯奨学生としての採用通知でした。

Q：採用が決まったときのお気持ちはいかがでしたか。

A：採用の知らせを受け、両親も妻も喜んでくれました。これで資金の心配をせずに、勉学に集中できると安堵したことを覚えています。支援していただけたことに、今でも深く感謝しています。

Q：MBAではどのようなことを学びましたか。

A：MBAでは、企業経営について実践的に学びました。米国企業の成功事例を題材に、自分ならどのような経営判断を下すかをグループで議論したり、架空の企業が在庫過剰や債務超過に直面した場合、どのように対応するかを考える演習にも取り組みました。

また、世界各国から集まった同級生との学びも大きな財産となりました。同級生には、医師、弁護士、会計士、大企業の社員など、多様な経歴を持つ人材が揃っていました。英語での学びには苦労もありましたが、学校や同級生が熱心にサポートしてくれました。

会計士の友人から会計学を学び、自分はマーケティングについて教える等、互いの知識を共有しあえる刺激的な環境でもありました。そうした経験を通じて、数字に強くなり、数値分析能力が大きく伸びたと実感しています。

Q：MBA 留学を振り返っていかがですか。

A：大変なこともありましたが、最後までやり遂げたことが大きな自信に繋がりました。36歳での留学という挑戦でしたが、年齢に関係なく、新しい環境に飛び込み、努力を重ねることで道は開けるのだと実感しました。

また、学びだけでなく、親友と呼べる人にも出会うことができました。MBA 留学は、キャリアだけでなく、自分の人生そのものを豊かにしてくれた経験だったと思います。

Q：碧峯奨学金の意義について、どのように感じていますか。

A：MBA 取得者は、米国ではビジネスエリートとして認識されることも多く、社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍しています。碧峯奨学金は、在日同胞の中からグローバルに活躍する人材を育て、社会をリードする人材の輩出につながる意義ある制度だと感じています。

私自身も、碧峯奨学金の支援がなければ、MBA 課程を全うすることは難しかったかもしれません。今後も、MBA を目指す後輩たちの挑戦を後押しする制度として続いてほしいです。

Q：これから MBA を目指す方へメッセージをお願いします。

A：MBA 取得までの道のりは厳しく、困難も多いと思いますが、しっかり努力して自分の目標を実現してほしいです。

Q：今後の目標について教えてください。

A：これからも国の違いにとらわれず、グローバルな仕事に取り組んでいきたいと考えています。MBAで得た知見を武器に、さらなる挑戦を続けていきたいです。